

マイワシ資源回復に伴う陸の処理能力の問題について

境港水産事務所

1 マイワシの資源変動の特徴

- ・地球規模の海洋変動に宍答してマイワシは周期的に資源の増減を繰り返し、現在は回復傾向(図1)
- ・1990年代のピーク時は、年間10万トン以上となる水揚げは15年程度と短かった(図1)
- ・境港は1930年代の豊漁経験していない(図2)・・・チャンスを逃している?
- ・マイワシのTAC管理により、5年後に年間漁獲量30万トン(現在7万トン)に回復と予想(図3)
- ・最大限の利益を得るためには、大規模に処理できる加工施設の資本の投入と回収
→短期間に減価償却も含む経営戦略求められる

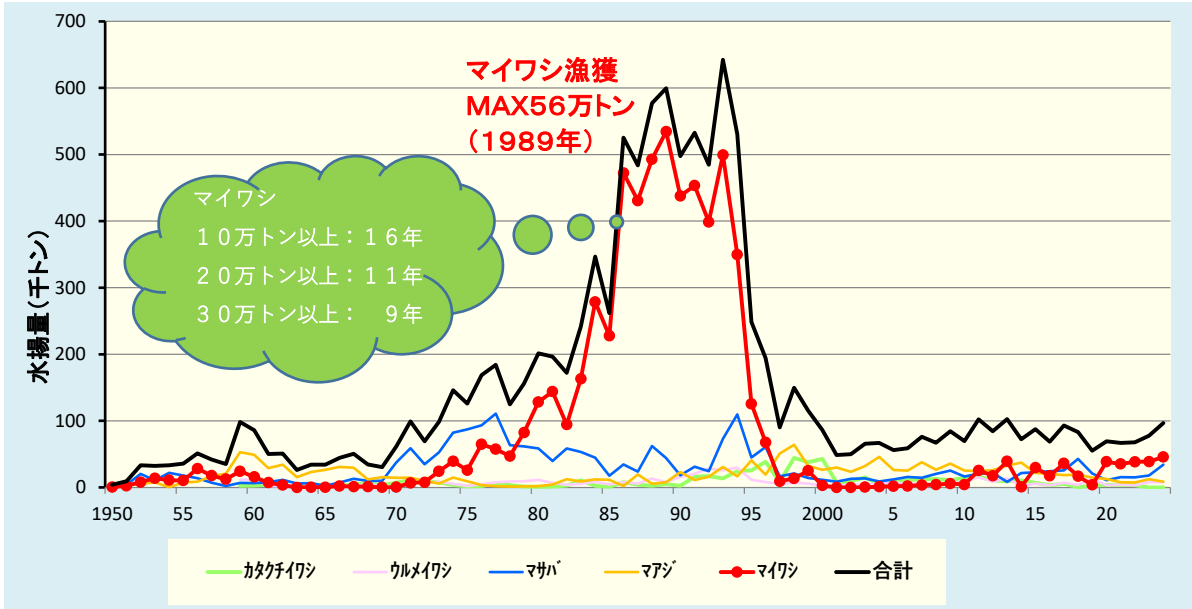


図1 旋網による境港の浮魚類の水揚量(1950年から2024年)



図2 全国と境港のマイワシの水揚量(1905年から1995年)

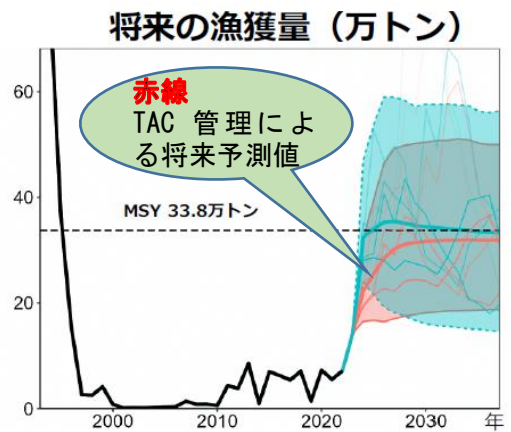


図3 対馬暖流系マイワシの将来予測

2 現状の冷凍冷蔵能力

- ・境港地区において冷凍冷蔵能力が不足しているため、千トン以上が数日続く大漁時には各漁船に水揚げ量の制限をかけている。
- ・国のマイワシ資源評価結果から今後漁獲増加が見込まれる一方で(図3)、冷凍冷蔵能力はいずれも減少していく見通しである。境港地区の冷凍冷蔵能力の確保は急務。

3 今後の見通しと方針案

- ・山陰旋網の冷凍・冷蔵庫施設整備後は、**境港の冷蔵能力は74,500トン**になる見込み。マイワシ豊漁時(1995年)の冷蔵能力は99,000トンであり、既存冷蔵庫の廃止に加えマイワシ資源が本格的に回復するとさらなる不足が見込まれる。
- ・まずは、アンケート調査や意見交換会を開き(事務局は県・市)、冷凍冷蔵庫の更新を希望される関係者の意見を集約し活性化協議会に報告したい。